

5) 平成 28 年度「教員による授業参観」について

【はじめに】

教員による相互の授業参観は、教育学部設置後実施し、今年度で 3 年目である。目的は、本学部専任教員による教養・専門等の授業が、授業参観のアンケート項目としての「動機づけ、学生とのコミュニケーション、授業方法など」の面において適切に行われていることを教育学部の同僚教員の目を通して確認・検証すること目的としている。これにより、FD 報告書の「はじめに」に示した教育学部の授業改善における PDCA サイクルの一つを機能させることが可能となるものと考えている。

【前期における授業参観について】

- 1) 実施状況：前期においては、教育学部に本年度新たに採用された 2 人の教員が実施する授業科目を対象に教員による授業参観を実施した。
- 2) 授業参観者：教育学部教員（延人数）7 人。
- 3) 授業参観期間：平成 27 年 6 月 22 日～7 月 23 日（講義修了）まで。
- 4) 授業参観対象の講義：保育の心理学 I（2 年生）、理科教育法 II & III（3 年生）の 2 科目。
- 5) 評価項目 授業参観の評価項目（別紙参照）は、動機づけ 10 項目、学生とのコミュニケーション 1 項目、講師について 2 項目、技法 8 項目についてアンケート形式とし、それぞれの項目について「良くあてはまる：4 点」～「全くあてはまらない：1 点」及び「該当しない」と思われる点に「○」をマークする。さらに、これらのアンケート項目についてそれぞれ評価点 及びその合計を総合評価点とする。また、記述欄を設け、参考となる点や工夫している点等 について具体的に指摘する他、自分の授業等で取り入れたいアイデア等あれば記述するようになっている。

前期において教員による授業参観を実施し、評価を整理した結果、「保育の心理学 I」に

ついて、その総合評価点（満点：4点）は、授業参観を行った3人の教員全員が評価項目で、1か所（3点と評価）を除き、すべてで「4.0」と評価され、総合評価点は「3.98」であった。さらに、コメント欄では、この総合評価を裏付けるように、授業の工夫が随所で行われ、資料、板書、説明の分かりやすさ、グループディスカッションのやり方、学生と教員の意図した協働的な授業づくりなどが挙げられ、全く申し分のない授業であった。本教員は平成28年度のベストティーチャー賞を受賞した。

一方、理科教育法（Ⅱ及びⅢを一括で記述）は、前者と同様に、総合評価点が「4.0」に近い評価が与えられており、コメント欄には、教員は教育法の講義では、教科に係ることを具体的かつ詳細に指導し、プレゼンの配布資料は写真や図を使い分かりやすい形で提供し、さらに学生とのコミュニケーションに注意を払い、質問等に対する的確に回答するなど、非常に熱心に模擬授業を指導しているようであった。総合的に、教育法を担当する多教員から、自分の教育法の講義で非常に参考になる授業との評価であった。

【後期における授業参観について】

- 1) 実施状況：後期では、教育学部の専任教員で後期に担当する1年生及び2年生を対象とした授業科目について授業参観を実施した。
- 2) 授業参観者：教育学部教員（延人数）4人
- 3) 授業参観期間：平成28年12月16日以降～平成29年2月3日（後期授業終了）まで
- 4) 授業参観対象の講義：後期に開講された専任教員が担当する授業科目4科目であった（文学、教育制度論、保育内容指導法・人間関係、子どもの音楽活動）。
- 5) 評価項目（別紙参照）
前期と同様のアンケート形式で実施した（動機づけ10項目、学生とのコミュニケーション1項目、講師について2項目、技法8項目について、それぞれ「良くあてはまる：4点」～「全くあてはまらない：1点」及び「該当しない」と思われる点に「○」にマークし、評価点を算出した。また、記述欄を設け、参考となる点・工夫している点等について

具体的に指摘する他、自分の授業等で取り入れたいアイデア等あれば記述)。

教育学部は平成 26 年度開学し、今年度で 3 年目が終了したことになる。専任教員の講義担当は実習担当も含め 3 年生までに履修するように配置している。したがって、教員によっては宮崎学園短期大学の非常勤も含め、後期期間中に 7 コマ程度担当している。すなわち、他教員の授業参観を行う時間が取れない状況になっている。このためと思われるが、昨年度に比べてわずか 4 科目の授業参観が行われたことになる。なお、評価は、3.17～4.0 であった。

【平成 28 年度前期・後期における教員相互による授業参観評価に関する総括】

平成 28 年度前期及び後期において、開講された授業において、教育学部専任教員は、授業参観アンケートの項目について、高い評価の授業実践を行っていることが確認された。

以上のように、平成 26 年度～28 年度の 3 年間にわたる教育学部教員による授業参観を実施して、適切な授業が展開されており、ほぼ満足すべき教育が行われていることが確認された。しかしながら、授業参観の件数は著しく減少していることも確認された。授業参観の目的は、【はじめに】において、記述したように、本学部専任教員による講義において、受講生にとって、講義の「動機づけ、学生とのコミュニケーション、授業方法など」の面でアンケート項目について適切に工夫され、教育改善が行われているかを教育学部同僚教員の目を通して確認・検証することであり、教育学部の教育の質向上を図るための PDCA サイクルの一つとして定義している。したがって、次年度、授業参観がしっかりと実施されるように検討を行う。

○講師について

	あてはまる (4点)	ある程度あ てはまる (3点)	あまりあて はまらない (2点)	全くあては まらない (1点)
(1) 講師の授業に対する熱意が十分に感じられた				
(2) 講師は十分な準備をした上で授業にのぞんでいた				

○技法

	あてはま る (4 点)	ある程度 あてはま る (3 点)	あまりあ てはまら ない (2 点)	全くあて はまらな い (1 点)	本技法 は該当 しない
(1) 声の大きさは適切であった					
(2) 話すスピードは適切であった					
(3) 学生の理解を促すよう効果的にスライドを使用していた					
(4) わかりやすいスライドになっていた (構成・字の大きさ)					
(5) 学生の理解を促すよう効果的に板書を使用していた					
(6) わかりやすい板書になっていた (構成・字の大きさ)					
(7) 学生の理解を促すよう効果的に資料・レジュメを使用していた					
(8) わかりやすい資料・レジュメになっていた (構成・字の大きさ)					

6. 工夫していると思われる点や良い点について、具体的にお書きください

7. 自分の授業等に取り入れたいアイデア等があれば、具体的に書いてください

※本シートの内容を確認し、FD委員会委員長に提出してください。